

マスコミ登場でお馴染みの銚子電鉄。今日もどこかの鉄道駅でぬれ煎餅販売してます。「自虐ネタ」でなくて「鉄道会社」視点でしてみました。



「2022年6月決算で副業のぬれ煎餅売上が貢献し、**純利益は21万円**で赤字脱却を発表」は嬉しいニュースでした。

路線距離6.4km、駅数9駅は「地域の足」か？と問われると弱い立場です。県内のいすみ鉄道比較で事業の規模は似たようなものですが、**株主が竹本社長以下個人株主**で、公共性が乏しいのも厳しい状況と想像されます。

	銚子電気鉄道株式会社	いすみ鉄道株式会社
路線	銚子駅 - 外川駅 6.4km	大原駅 - 上総中野駅 26.8km
駅数	9駅 (除く銚子駅)	14駅
保有車両	電気機関車：1両 電動客車：6両	気動客車：7両
旅客収入 (千円)	76,644	66,745
従業員数	24名	30名
資本金	6,910万円	2億6900万円
主要株主	竹本勝紀 10.58% 藤本修朗 8.33% 綿谷岩雄 6.58% 小原健史 4.08% 松岡明夫 3.26%	千葉県 34.20% 大多喜町 15.17% いすみ市 14.28% 小湊鐵道 5.58% 千葉銀行 3.72%



中ノ町駅 本社社屋

歴史を振り返ると実質3回倒産してます。最初は銚子遊覧鉄道時代の1917年、累積赤字で解散。2回めは1948年、企業再建整備法により銚子鉄道解散し現在の銚子電気鉄道に。3回めは前社長業務上横領の影響で2013年自主再建を断念。したところ現竹本社長を慶應塾高仲間が救ったと同窓会誌に記述があります。

1500万円/1編成/2年の車両検査費用、10万円/1mの保線費用と**鉄道事業は金食い虫**です。車両は今や直流1500Vが主流の中レアな600V、変電所は1946年製と**設備更新も不安**、公共性低いので**補助金いつまで支給**かと、ぬれ煎餅で食い繋げるかじっと見守ってます。



銚電型式「デハ1002」営団地下鉄直流600Vを改造、2015年引退

現在営業運転中の6両/3編成の車両です。

